

令和5年度 大津市学ぶ力向上策

【県 目標】

「読み解く力」の育成に重点をおいて取り組むことにより、子ども一人ひとりの「学ぶ力」を高める
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

【市町 目標】

新しい価値と可能性を追求する教育を実践し、多様性を尊重し自立できる子どもを育てる

【現状と課題】

○視点1 全国学力・学習状況調査の結果分析から、「授業改善」「ICTの有効活用」の観点からのアプローチが重要であると考えている。ICT機器を効果的に活用するなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を継続させる必要がある。
○視点2 各学校において、実情に応じて人権教育・道徳教育を実践している。さらなる充実を図るとともに、「生徒指導の実践上の視点(自己存在感の感受を促進、共感的な人間関係を育成、自己決定の場を提供、安全・安心な「居場所づくり」に配慮)」を意識し、学ぶ意欲を引き出す学習集団づくりに取り組む必要がある。
○視点3 各学校教員に占める若手教員の割合が益々増加している。校内OJT組織を中心に、若手教員や臨時講師、経験豊かな教員の双方向による指導力向上に努める必要がある。また、家庭・地域との協働により、学校教育環境の整備に取り組む必要がある。

取組事項および評価指標

※評価：【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目：9月 2回目：2月】

【視点1】学びを実感できる授業づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善。	・協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(市学校教育評価)		
②ICTの効果的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実。	・授業中、コンピュータやタブレットなどを使って、学級の友だちと意見を交換していますか【(児童生徒向け)学びのアンケート(県)】 ・授業中、コンピュータやタブレットなどを使って、自分の考えをまとめたり発表したりしていますか【(児童生徒向け)学びのアンケート(県)】		

【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①「生徒指導の実践上の視点」を意識し、支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを実践する。	・支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践(市学校教育評価)		
②人権教育・道徳教育の充実を図り、子どもの個性や多様性を認め、かけがえのない存在として互いを尊重する教育を推進する。	・道徳の授業でものごとを様々な視点からとらえ、考えようとしていますか【(児童生徒向け)学びのアンケート(県)】		

【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり

取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①校内のOJT組織の充実を図り、教員相互の指導力向上を目指す。	・主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会の実施(市学校教育評価)		
②学校・家庭・地域の協働の充実を図り、子どもを育てる環境づくりを推進する。	・保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用(市学校教育評価)		

・大津市教育振興基本計画の基本理念「新しい価値と可能性を追求する大津の教育～多様性を尊重し自立する人～」をもとに、児童生徒の学ぶ力向上のため、一年間を見通して本市が大切にすべき取組を整理する。
・校園長会議(年6回)や教頭研修会(年5回)、教務主任等連絡協議会(年1回)等で共通理解を図るとともに、教育センターでの教職員研修や指導主事による学校訪問時(通年)において、学校と教育委員会事務局が実践の進捗状況について情報共有する。
・「我が校の学ぶ力向上策」に応じた各学校の取組については、教育委員会事務局から定期的に紹介(通年)する。
・市の学ぶ力向上策においては、中間評価、期末評価時に、その結果に基づき、課題、改善策について再考し、他市町の取組も参考にしながら、各学校の向上策への充実に向けて支援する。

今年度の取組の成果と課題

--